

## < 「第4回 鴨川沿岸海岸づくり会議」の概要 >

### 1. 会議の概要

日時、場所	2004年11月27日(土曜日) 鴨川市役所 4階会議室(13:00~16:40)
会議の趣旨	<p>漁業や観光、レジャー、市民の憩いの場として貴重な海岸線を、侵食などから守り、ふるさとの自然を将来に残してゆくため、鴨川沿岸(前原海岸・東条海岸)の保全と有効活用をテーマに、市民の方々に海岸利用に関する情報提供を頂くとともに、海岸・漁港の課題と方策をご紹介しながら、市民の方々との課題の解決に向けた意見交換を行いました</p> <p>4回目の今回は、海岸における植生帯の状況や沿岸全域の現状・課題についての総括と対策、利用者からの提案などを踏まえ、専門家を交えて参加者の方々との意見・情報交換を行いました</p>
会議の内容	<p>第4回 鴨川沿岸海岸づくり会議 (参加 約75名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議の趣旨説明、参加者紹介</li> <li>・ 第3回会議の報告 (事務局により説明)</li> <li>・ 波除堤整備の現状報告 (南部漁港事務所により説明)</li> <li>・ 海浜植生の観察結果報告 (専門家により説明)</li> <li>・ 沿岸の抱える課題と方策 (事務局・鴨川整備事務所・SFJにより説明)</li> <li>・ 意見、情報交換(フリーディスカッション)</li> </ul> <p>&lt; これまでの会議内容 &gt;</p> <p>第1回会議(2003年11月16日(日曜日))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の海岸の状況を視察 (専門家より解説)</li> <li>・ 沿岸の変遷について (専門家より解説)</li> <li>・ 意見、情報交換</li> </ul> <p>第2回会議(2004年3月7日(日曜日))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沿岸の環境、利用について (海岸利用者からの情報提供)</li> <li>・ 沿岸の越波や被害の状況について (専門家より解説)</li> <li>・ 漁港の現状と課題について (専門家より解説)</li> <li>・ 鴨川沿岸の変遷について (専門家より解説)</li> <li>・ 意見、情報交換</li> </ul> <p>第3回会議(2004年7月25日(土曜日))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森住氏による過去の前原海岸の写真提供(事務局により説明)</li> <li>・ 東条海岸の沿岸生態系 (専門家により説明)</li> <li>・ 海岸・漁港の課題と方策について (専門家により説明)</li> <li>・ 鴨川漁港前原地区の波除堤整備について(南部漁港事務所により説明)</li> <li>・ 意見、情報交換</li> </ul>

### 2. 会議の様相



< 会場の様子 >



< 休憩時間にも専門家と情報交換が行われました >



< フリーディスカッションの様子 >



< 参加者の方々から積極的に発言を頂きました >



< 朝日写真館より昭和初期の鴨川の貴重な空中写真をお借りして展示させていただきました >



< SFJより海外の海岸利用と過去の鴨川沿岸の状況についての貴重な写真を展示いただきました >

この頁の写真は全て事務局撮影

3. 議事録概要版

表3-1 前原地区波除堤整備の現状について

説 明
<p>〔工事の進捗状況の説明：南部漁港事務所 高木氏〕</p> <p>11月～：工事発注。現在、調査および準備に取りかかっている。</p> <p>12月～：基礎（捨石）を着工（1月迄）。その後本体の据え付け。並行して直立消波ブロックを本港地区の野積み場にて製作。（12月末迄）</p> <p>3月～：上部工の施工。（3/25迄）</p> <p>天候の影響や沈本体据え付け後の沈下が起きると想定して4～5月まではかかる見込み。工事期間中は資材の運搬や作業を行うので前原防波堤での釣りは我慢していただきたい。</p>

表3-2 沿岸に関する話題提供

解説中の写真	説 明
 <p>清野氏撮影</p>	<p>〔海岸に繁茂するつる草の調査報告：清野氏〕</p> <p>汐入公園前の植生にハマゴウに覆い被さるように、黄色いフワフワした綿のようなつる草がついていた。これは寄生植物で海岸の植物に根をおろして、地面からではなく植物から栄養分を吸い取って増えている。日本の南の方に生えている「スナツタ」の北上もしくは、外来植物である可能性がある。外来植物で強いものが増えると元々いた植物がダメになってしまうので、それを守るためにもいつ頃から増えたのか、どこを中心に広がったのかなどを教えていただければ千葉沿岸や日本の海岸で植物を見ている方たちに聞いてみたいと思う。</p> <p>地域の海岸をずっと見ていただけの方がいるという場所は、そこがどういう場所かというのを長い間観察したデータがあるので、変化がわかりやすいことと、それから今後どうしたらいいのかというのを決めるときにすごく大事な情報になる。</p> <p>〔弁天島錦絵の解説：清野氏〕</p> <p>錦絵は、明治時代の方が写真がないときに何とかそれを残したいということで、浮世絵の絵を描いていた人が得の技術を発達させてほとんど写真に近い感じで描いた絵の方法である。</p> <p>アジアの人たちは潮のエネルギーをお祭りで体験するという文化を大陸の方から日本に至るまで持っているようだ。</p>
 <p>清野氏撮影</p>	
 <p>鴨川整備事務所撮影</p>	

表3-3 海岸、漁港の課題と方策について

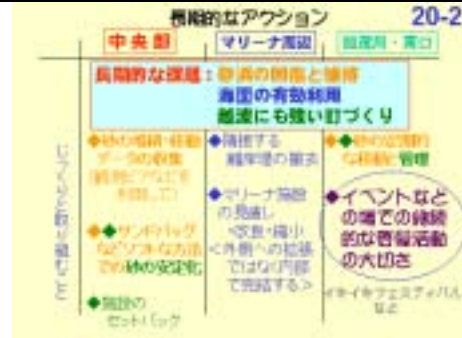
解説中の写真	説 明
 <p>事務局撮影</p>	<p>〔海岸の現況と課題の整理の解説：事務局 星上〕</p> <p>坂下：浜藪の岩礁帯と接しているところ。比較的緩やかなビーチがある。時折浜崖が発生している。護岸等の施設は海浜にはなく後ろの道路のところに昔の直立護岸がある。浜幅は70mくらい。</p>
 <p>事務局撮影</p>	
 <p>事務局撮影</p>	<p>バイパス下：サーファーの方からマルキと呼ばれるポイント。駐車場が雨でぬかるむ。緩傾斜護岸があり、浜幅は40～50m、勾配1/10～1/20程度の比較的緩やかな勾配。ウミガメがあがって来たり、サーフィンがやられている場所。</p> <p>保安林：写真中央に見えるのは護岸の天端のコンクリート。護岸は完全に砂で埋もれている。この砂は越波とか飛砂で護岸を覆い尽くして後ろの保安林まで連続した植生帯になっている。</p>
 <p>事務局撮影</p>	
 <p>事務局撮影</p>	<p>鴨川ロイヤルホテル前：前回の台風で越波被害を受けてガラスの窓が割れて会場に大量に波が飛び込んだ。被害は相当なものだったと聞いている。</p> <p>シーワールド駐車場から西を望む：緩傾斜護岸。ブロックの小さい過去の昔のタイプの護岸。浜幅は20m前後。マルキの方のポイントに比べると砂浜の勾配が若干急で砂粒も少し粗い感じである。護岸の後ろに越波・飛砂で飛び込んだ砂が溜まっている。頻繁に越波する場所である。</p>
 <p>事務局撮影</p>	
 <p>事務局撮影</p>	<p>シーワールド前：昨年、重機が入って壊れた護岸の復旧工事をしている様子。現在は直っている。比較的越波が激しい場所。浜幅は20mくらいで粒径も比較的粗くて勾配が急であるのが特徴。</p> <p>待崎川左岸海岸：10月くらいの台風で浜がガクッとやせて大きな浜崖ができた1週間後くらいの様子。浜崖の高さは最大2mくらいであった。現在は浜崖の前に浜が戻りつつある状態。</p>
 <p>事務局撮影</p>	

<p>18-9</p>	<p>待崎川左岸海岸の植生帯：浜幅は植生帯を入れて 70～80m くらい。植生帯背後に昔の直立護岸が埋もれている。</p>
<p>18-10</p>	<p>待崎川：河口がいつもふさがっていて、水質が悪化していて悪臭がすることや、背後の汐入公園にホームレスの人が住みついているという状態。</p>
<p>18-11</p>	<p>未来高校前の駐車場付近：去年の夏には 1m くらいの浜崖ができていた。普段から波で土地がすくわれやすいところで、最近も土砂を入れていた。</p>
<p>18-12</p>	<p>未来高校前の駐車場付近：布団籠の護岸がある箇所。駐車場が頻繁に被災したり浜崖ができたりする。浜が無いので大きな台風が来ると駐車場の後ろの古い護岸を飛び越えて波が飛び込むこともある。</p>
<p>18-13</p>	<p>前原・横渚海岸：一番凹んでいる所は、現在はほぼ護岸とくっついておりほとんど浜が無い状態。離岸堤のトンボ口により水域が若干狭い。前原地区に多量の越波を起こして被害があったことで離岸堤を建設した経緯があった場所。</p>
<p>18-14</p>	<p>前原・横渚海岸：浜幅が 130m くらいある。後ろの方には植生が生えている。非常に勾配が緩くて砂粒も細かい。冬場、夏場の風が強いときは飛砂が飛んで、背後の住宅の方まで行っているという意見もある。</p>
<p>18-15</p>	<p>前原・横渚海岸：潮が引くと離岸堤まで地続きになってしまうくらい遠浅になっていて水域が狭い。過去に越波被害を受けた地区の 1 つ。</p>

<p>&lt;平成14年災害時の横断断面&gt; 19-5</p>	<p>〔越波対策の経緯について：鴨川整備事務所 児安氏〕 被災を受けた護岸の天端高は T.P. +5m でつくった施設だが、高潮と高波浪の関係で越波被害の状況を判断すると 1m 程度上げないとたないだろうということから、T.P. +6m という断面に改良する形で、てっぺんに波返しをつけたような構造、直立護岸に近い形を検討した。ただ、災害復旧事業は基本的には原形復旧ということが原則ということで、計画時点で 5m という高さで計画しており高さ 6m は国に認められなかったという経緯がある。</p>
<p>〔越波対策に関するホテルへのヒアリングについて：鴨川整備事務所 児安氏〕 &lt;各ホテルの回答の要旨&gt; ロイヤルホテル 波が飛びこんだ 1 階の宴会場は使い物にならなくなってしまった。是非とも越波被害を抑えてほしい。 シーワールドホテル 浸水等についてはある程度社内で対策をとっている。できれば被害の少ない方法がとれないか。海に関する事業ということで、海が見えなくなるとは困るという意見もある。 グランドホテル 観光の目玉が海ということで、直接海が見えなくなるような施設は非常に困るが、なるべく越波被害だけは少なくしてほしい。</p> <p>&lt;ヒアリング調査に関する補足説明：事務局&gt; 昔であれば 10 数年に 1 回ぐらい波が飛び込んでもしょうがないという感覚だったのが、最近は年に何回か来てしまい設備を壊したりして経済的な負担になっていると思われる。ヒアリングに同行してみて、このような時代で利益が潤沢にあるわけでもないと思うので、ホテル側が非常にジレンマを抱えている様子うかがえた。</p>	

表 3 - 4 SFJ からの提案・意見等の発表

解説中の写真	説明
	<p>〔これからの鴨川の海岸の在り方について：SFJ 上田さん〕 究極的なゴールというのはやはり古きよき海岸というが、昔の鴨川の海岸線になれば一番いいと思っている。もちろんそれというのは現実的にいろいろ問題があると思うし、すぐにそこに到達するはずもないと思うがそういうビジョンは持っていたい。やはり徹底的に自然の海岸というのはどういうメリットがあるのか、何年後かの次の世代にどういうものが残せるかということはすごく大切にしていきたいと感じる。</p>
	<p>〔短期的なアクションについて：SFJ 栖原さん〕 東条海岸（シーワールド付近を中心に）の砂がなくなっていることに対する提案として、前原海岸（フィッシャリーナ横）や漁港前、加茂川の中にある砂を東条海岸に移動させてみてはどうか。1～2年もつのであればその間は人工的なものはつくらないでいいのでは。それと同時進行的に堤防の嵩上げを行ってはどうか。</p>



〔長期的なアクションについて：SFJ 上田さん〕

砂がどう感じるかについての客観的なデータを積み重ねる必要があるのではないか。「ピア」とは棧橋だが、今までどおりの固い構造物で対策するのに比べて観光的にもいいし、貝などの生態系に対してもコンクリートで何かするよりはいいのでは。砂はすぐに移動することに対してサンドバックを人工的に置くことはどうか。フィッシャリーナに隣接する離岸堤の段階的な撤去を通じて海岸を改良し、海面の有効利用につなげられないか。サンドリサイクルは継続的に行うべき。「ピア」は砂を確保するという目的で作られたものではないが、ピアを取ったら侵食したという報告もあり逆説的にそういうもので砂を確保するというのは全くナンセンスではないと思う。

表 3 - 5 意見交換

意見・情報交換

- Q. 垂直の護岸を高くするという話があったが、ポール・ジェンキン氏（カリフォルニアでダム反対運動をしている方）の話では、護岸を上げれば上げるほど下の砂が（護岸にあたった波の力で）えぐられて侵食されやすくなると聞いているのだが。（谷内さん）
- A. 護岸をつくる位置による。ホテル前の遊歩道の陸側にあるようなものでもいいし、波に向かって顔を突き出さないようなものもいろいろあるので、広く考えていただければよいと思う。（護岸下がえぐられる現象については）原理的にはそのとおりで、本来は砂がたっぷりあるところに後ろに引いた形であるのが理想である。（宇多氏）
- Q. 今年の秋口に待崎川左岸の砂が無くなった現象がある。これは浜崖だと思うが、浜崖とは砂がたまるところに起きる、侵食とはちょっと違う意味合いがあると思うのだが。（足名さん）
- A. 浜崖側に行くとこもりと砂の塊があるが、あれが「バーム」といって砂が堆積したときにできるものである。浜崖というのは侵食のときにできる一番典型例である。おおよそ沿岸方向にあるところからパツときれいさっぱりなくなったときに構造物の隣でよく見える。（宇多氏）
- 私の生まれ育った守谷海岸は、台風で侵食を受けたという記憶が全くないにもかかわらず、砂浜のずっと前の方に直立護岸をつくってしまい家や民宿が建ち始めて私有地ができてしまった。鴨川もそういう傾向があったのではないかと。鴨川シーワールドのところはもっと手前に浜があったはずでそこは松林であった。海岸道路は本当は海につくってしまったわけで、海が自分の土地を波で元に戻したくなるのは当たり前なこと、どんなにガードしたって大波やら何かがあれば必ずザブンと来ると思う。夢物語と思って聞いてほしいが、ニースの海岸のように道路を高く上げてホテルはその後ろに下がっていただくというのはできないだろうか。（相原さん）
  - 明治の頃は、前原海岸では今のサンシティー、ラメール、ユニバースホテルにかけては上げ潮になると旅館いっぱいまで波が来て、そこに個人で材木を組んで石を入れて波を消していたそう。関東大震災で隆起しても台風が来ると今のノンキー、グリーンクラブというペンション、サンライズコーストの辺りから芝通りや本町通りに波が上がったそう。そのため昭和元年生まれくらいの若い人たちは戦前から戦後にかけて道の一番たかいところに土嚢を積んで波が入ってくるのを防いだそう。昭和 20 年代は待崎川には導流堤が無く、東側は鴨川グランドホテル、西側は市民会館を越えて蛇行して浜崖のように直角にえぐられていたが、いつのまにか侵食された砂は人の手を加えずに戻っていた。そのときは加茂川を真っすぐ流すような堤防が港側と前原側にあっただけである。（倉野さん）

- 日本の国の海岸の問題というのはほとんど人間が余計に出しゃばって川の流れをいじくって、海から砂を取ってギリギリまでやったという、その過去を全部調べるとほとんどそれに突き当たるのである。しかし、これはずっとやっていくと、松林というか、砂浜に戻せばいいではないかという、そういう論理にどうしても行ってしまふ。まことに正論なのだが、これはきょう、きのうの問題ではなくて、ここ数十年間にわたって、あるいはもう戦前からかもしれないが、一応コンセンサスをつくってきたという歴史があるので、それをガーンとやるのは、まさにこれは政治的な問題で、非常に困難だと思う。そういう中で、本当の妥協点を見出そうとすると、辛い答えを何とか編み出していくしか方法はないのではないかと。（宇多氏）
- Q. 待崎川の導流堤と整備事務所付近の側溝の高さが合っていないから、砂が待崎川の方にたまりやすくなっているのでは。この対策として待崎川の導流堤を低く蒲鉾型にし、同時に側溝を浜の傾斜角度に合うような低さまで持っていくのはどうか。（足名さん）
- A. 導流堤の高さは現在の高さでも足りないくらいである。もし低くすれば東うねりが入ってきたときに砂利が大量にオーバーフローして前原海岸側になだれ込んでくると思う。前原側には砂は余り来てもらいたくない状況なので、それを助長する感じになると思う。（宇多氏）

- Q. 海岸全体を昔のように「コの字」に捉えて、この直線（図 3-5-2 下段写真中の黄線）を見た中でテトラポッドを移動させてみてはどうか。（足名さん）

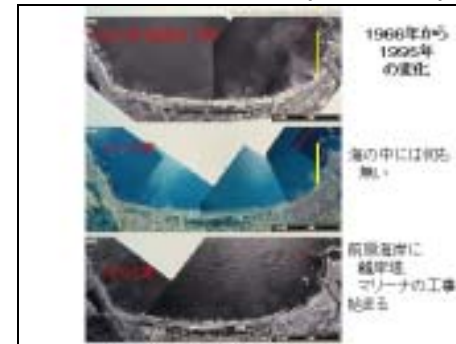


図 3-5-1

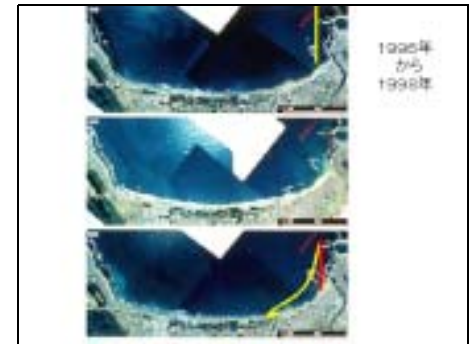


図 3-5-2

- A. フィッシャリーナに隣接したテトラを取ると、今は渦を離岸堤で手前に抑えているがスツと漁港の前に流れるので、ちょっと時化したときに細かい砂がそこに溜まってしまふ。航路に砂が溜まってしまふので今度はそれをとらなければならないというドミノ倒しが起こってしまう。（宇多氏）
- 直線（図 3-5-2 下段写真中の黄線）を生かして東条海岸のシーワールド周辺的设计をもう一度直してみたらどうだろうか。（足名さん）
  - 漁港の方の離岸堤の周りは昔はみんな本町通りあたりまで波が上がった。関東大震災後、隆起した途端に地先の権利とかでワツと前へ出てきた経緯がある。相原さんが言われたように、ほとんど砂浜の中に建造物を建てたのである。この浦の生態系、ハマグリ、ナガラミといったものも少なくなるというのは、やはり川から出る水の腐葉土、そういった面の生態系も結局変わっているのだろう。（渡辺さん）
  - SFJ の大きな意見としては昔の広い浜に戻したいというのが太い骨子であり中心の理念である。昔に戻すのは不可能という感じもあったが、実際にカリフォルニアではセットバックといって海岸と生活圏の間の線を下げたという事例もあるので、長期的にビジョンを持って昔に戻したいという、サーファーだけでなく、漁師の方、市民の方々の意見があれば不可能ではないと思う。今まで皆さんで話し合うステージはなかったが、話し合うことができるということは、必ずいろいろな不可能なことも可能にできると思う。（赤堀さん）

- ・ 2年ぐらい前までは駄目と言われていたことが、今年になって、やはりこれはやった方がいいとか、やれるようになったのというのは本当にある。港の防波堤についてもちょっと延ばし過ぎてしまったものとか、余り設計がうまくなかったものを戻すとか、取ってしまうとか、あとは埋め立てたところをちょっとずつ戻すとか、そういうことというのは本当に各地域で動き出すようになった。それは何でかということ、地元の自然をずっと見てきた人が、やはりこれはやり過ぎではというものはきちんと観察していて、前はできないと言っていたことをできるようにしようというふうになってきたのである。だから、相原さんがおっしゃっていたことも、ここ5年とかではすぐにはではないのかもしれないが、長期のこうしたいということを経験の人が過去ずっと見てきたこととかも含めて絵があって、それに向けて5年後とか10年後とか、ちょっとずつできるようなことの予定をきっちり立てていけば、実現する可能性が出てきていると思う。勝山の例では、地元の方がどこまでどう波が上がったという古い話を丁寧に図面に落としつけて、それで県の技術の方も細かい設計ができるようになった。和田町の白渚の場合も、そういう形でサーフィンの方がやはりリーフの問題とか指摘されて、漁業者の方も余り海の中をいじらないという中で、みんなで一生懸命知恵を絞って何とかやったものである。(清野氏)
  - ・ いろいろな提案が出たときに、もっといろいろな情報がないとそれができるかどうか分からないことというのはあると思う。だから、漁師さんのお話などですごく大事だと思うのは、漁港の周りではどんな魚が、例えばヒラメが釣れるようになったとか、放流したときにどうなったとか、そういう生物の情報があると、そこにどれぐらいの粒の砂がたまっているのかとか、生態系は変わってしまったのかとか、そういうことがわかるので、そんな話とかも出てくると、多分そこはこういう粒の砂だから、それをこっちへ持ってくるとだめとかいいとか、そんな話にもつながっていくと思う。(清野氏)
- Q. 最近の急に雨が集中的に降って、そのときに鴨川がこんなに水がふえているのかというぐらいにふえているのだが、川の底の高さとかと洪水とかの関係とか、河川管理はどういうふうにかえたり、何か対策はされているのか。(上田さん)
- A. 横断的に河床低下がそれ以上下らないような構造を一部つくっている。現実的にはやはり局所洗掘でつくった護岸が壊れてしまうとか、そういう場所もあるが、極端に河床低下を起こしている箇所は加茂川の特に中下流部に関してはないのではないかと。上流部は逆にまだよくわからない。(河床が上がっていることについては)具体的に測量をしている年次が最近ないため、イメージからすると下流部は堆砂傾向が強いという認識はある。(鴨川整備事務所：児安氏)
- Q. 大体加茂川のどの辺、待崎川のどの辺がどういう感じとか、逆に河川管理的にはここは砂を取ってしまったりすると何かひっくり返ってしまうからだめとか、大体の情報というのは出てくるのだろうか。どこが堆積傾向とか、どこが洗掘傾向とか、大体把握はしているのだろうか。
- A. 少し時間をいただければ、その辺を図面に落とししてという話は可能である。
- ・ 川の流速だが、加茂川の権現橋といって体育センターの近くに住んでいる人で、バイクで大山まで荷物を持って行って、雨に降られて大急ぎで長狭街道を通って家まで帰るのだが、泥水が自分の家の前を走るまでに20分ぐらいの差があったという。10年ぐらい前になったら、もうほとんどバイクと同じ早さで来るということは聞いている。(倉野さん)
  - ・ 事務局の方からの提案であるが、上田さんの方から短期、長期の案で、堤防の話とか、砂を動かす話について我々の方に検討せよということで異論がなければ情報を集めて整理するという事で県の方と相談したいと思う。まずは情報収集という形で、地図に載せるとか、流速の話もあり、砂の粒径の話、魚がどういうふうにこの地域で変わっていったかの話もぜひ漁協の方にも時間をとらせていただいて伺いたいと思う。そういう物理的な特性と生物の話とを少し情報収集をさせていただいて、地図とか、一覧表にまとめる作業を少しして、それをたたき台にまた議論をしていただいてというのはどうだろうか。(事務局：星上)
  - ・ 浜掃除をしているのだが、カジメが必ず秋には1回ものすごく上がる。それは落ち葉だそうだが、海岸にドーンと上がると腐敗はするし、ごみとして燃えないし、港の方だとスクリューに絡まるし本当に困っている。畑に非常に栄養になるということを知ったが、鍵をあけてくれて車が入れるようになれば、みんな資源を大事にして使えるのではないかと。(相原さん)

- ・ カジメを肥料として使うには塩抜きしなければならないから大変である。塩抜きするには天日で何日か干す。紀文フードケミカルでカナダからの輸入物を使っている。この限界でもみんな昔はヨーチンをつくっていた。(清水さん)
- ・ 要は削られた砂浜がある程度波に耐えられる広さをに戻れば、ホテルさんにたたき込まれた波などがなくなるということではないかと思う。川に堆砂がある、これをというお話で、やはり今絶対量が少ない中で砂をどうやってこの4kmぐらいの海岸に平均に分配するのか、これを考えることが一番楽なことだと思う。そうすれば、護岸を嵩上げすることもないし、また護岸が大きくなるともならないと思う。カジメは輸入品の方が国のものよりも半分ぐらいのためにだれも今は採る人はいない。処理するには砂浜に穴を掘りカジメを入れて砂で覆いをかぶせておくとか大体1ヵ月で影も形もなくなる。(水嶋さん)
- ・ 砂浜というのは目に見える砂浜が500mも700mも沖までつながっていると錯覚するのだが、実際には波打ち際から50mか30mぐらいしか砂はないのだ。40年代にはまだあるということで海岸砂を採取した砂は200m、300m、沖合の底にあった砂が補給されていて、現在は海の中には砂がないと思う。だから、ここでもやはりハマグリだとかそういうものが砂がないから成長できないということにつながっていると思う。河川改良は河川改良をすることを通じて、海岸の保全も考えてもらわなければいけないし、農業用ダムをつくって水を取って田畑を潤す人は、やはりその結果がどういうふうになるかという環境についても十二分に精査した上で、いろいろな想定、仮定を行った上でやっていただかないと、結局こういうことは何十年か先に出ると思う。(水嶋さん)
- ・ 事務局とか市の方、県の方とも御相談して、例えば公民館とか、可能でしたら漁協さんとか農協さんとかに行き、そういった海や川や、山も含めてそういう変化を、海の視点から伺うというのを次の会議までに何回かできればいいと思う。(清野氏)
- ・ 次回の会議、または小さいグループ会議みたいなものをする場合には、広報とかホームページを通じて開催告知をぜひしたいので、その辺の情報にぜひ注目しておいていただいて、伺いする際には、事前にまた市役所さんとか県の方から連絡をして時間をとっていただきたいと思うので、ぜひ御協力のほどをお願いしたい。上田さんたちから御提案をいただいて今議論をさせていただいた中で、砂を動かすことについての基礎データになるようなデータづくりとか生物のデータも含めたもの、堤防の強化とか嵩上げとか改良というのでも同時並行で少し検討が必要だということについて異論がなければこの2つの課題を中心にして必要な情報を集めていくという作業をこれから進めたいと思う。(事務局：星上)
- ・ 子供を持つ親の立場から申し上げたいと思うが、海岸というのは子供たちにとっても大変重要なところで、高校生にしてみれば青春を語ったり、恋愛を語ったりという大変貴重な場だと思う。そういうよい環境をこの鴨川の海岸に残していただきたいと思う。ひとつ海岸づくり会議ということですので、海岸で健全な子供を育てるといふか、家でファミコンばかりやっていないで浜に遊びに出たいというような、そういう海岸をひとつ皆さんで考えていただければと思う。(中代さん)